

2023年7月28日

報道関係各位

株式会社カネカ

IR・広報 (Investors & Public Relations) 部

カネカ「ヒト (同種) 羊膜由来間葉系幹細胞」による
デュシェンヌ型筋ジストロフィー治験を開始

株式会社カネカ (本社: 東京都港区、社長: 田中 稔) は、「ヒト (同種) 羊膜由来間葉系幹細胞*1 : KA-301 (以降、KA-301)」によるデュシェンヌ型筋ジストロフィー (Duchenne muscular dystrophy 以下、DMD) の第 I/II 相治験を開始します。本治験は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の産学共同実用化開発事業 (NexTEP) の採択を受けた KA-301 開発事業*2 の一環です。

DMD は、ジストロフィン遺伝子の変異により正常なジストロフィンが産生されないことで筋肉の壊死が起こる進行性の遺伝性神経筋疾患です。このようなアンメットメディカルニーズの高い疾患に対して、当社は、出産時の羊膜から分離した KA-301 を用いる新たな治療法を研究してまいりました。今回、東京大学医科学研究所遺伝子・細胞治療センター長の岡田 尚巳教授との共同研究における KA-301 の DMD モデルマウスでの実証*3 を経て、本治験の開始に至りました。

本治験は、国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター (理事長: 中込 和幸) をはじめとする国内医療機関・研究機関と連携して実施します。当社は、本治験を通して重篤かつ進行性の遺伝性神経筋疾患である DMD の方々への治療に貢献してまいります。

DMD 治療の開発を本治験で加速させ、グループ会社を含む当社の再生・細胞医療関連事業*4 をさらに強化・拡大してまいります。今後も健康に貢献する研究、及び商品開発を積極的に展開していきます。

以上



研究開発の様子



再生・細胞医療研究所 (神戸 MI R&D センター内)

*1. ヒト（同種）羊膜由来間葉系幹細胞

出産時の胎盤から分離した羊膜に存在する未分化の細胞。筋肉、骨、軟骨、脂肪など間葉系に属するさまざまな細胞に分化する能力や自己複製の能力を持ち、高い免疫抑制作用がある。また、拒絶反応が起こりにくいため他人にも移植しやすいなどの特長がある。さらに、羊膜の採取にはドナーへの新たな侵襲を伴わず、1枚の羊膜からたくさんの間葉系幹細胞が得られるため、大量生産に適している。

*2. 抗炎症作用をはじめとした多様な効果から各種疾患への適応拡大が期待される製剤用羊膜由来間葉系幹細胞の開発事業

*3. Nitahara Kasahara Y et al. Immunomodulatory amnion-derived mesenchymal stromal cells preserve muscle function in a mouse model of Duchenne muscular dystrophy. *Stem Cell Research & Therapy* (2023) 14:108

*4. グループ会社の株式会社バイオマスター（本社：神奈川県横浜市、社長：長谷川 卓爾）が経営するセルポートクリニック横浜において、独自の自家細胞治療技術を用いて乳房再建をはじめとする形成外科領域の高度医療の提供を行うと共に、同領域や変形性膝関節症などの整形外科領域向けの細胞提供を実施している。